

# 帰国報告書

元ベルギー王国ブラッセル日本人学校  
(平成13~15年度文部科学省派遣)

函館市立本通中学校 教諭 吉田 敬三

## ベルギー王国というところ

成田から12時間、ベルギーの航空会社であるサベナ航空(2002年に廃止され、日本からの直行便はなくなりました)で12時間のフライト。眼下に見えてきた大地は、どこまでもなだらかで、ちょうど北海道東部の広い台地を思わせるものでした。初めてみたベルギーの大地は北海道のそれと似ていて、妙に懐かしさを感じた…という印象が残っています。しかし、機体が高度を下げていくと、オレンジ色のレンガ色をした家々が目につき、北海道とは違ったムードがただよっていました。



### (1) 国土と気候について

ベルギーの国土は、東経2~7度、北緯42~52度に位置しています。面積は3万平方キロメートルで、北海道が8万平方キロメートルですから、かなり小さな国です。北海道よりかなり北に位置していますが、冬の気温は、北大西洋海流の影響でそれほど厳しくありません。冬の降雪は有りますが、積もることはまれです。-5度程度まで気温が落ち、道路凍結する場合、道に塩が大量に撒かれます。実際の生活では年中夏タイヤで過ごすことができます。夏は30度をこえる日が1週間程度続くぐらいの気候です。なお、国内の最高点は海拔693mで、たいへんなだらかな国土。

偏西風の影響で降水量も年間を通じてほぼ平均していますが、終日、雨が降り続くということはまれで、1日のうちにめまぐるしく天気が変わることが多いです。高緯度であるため、日照時間の較差があります。夏は16時間、冬が8時間程度です。夏が近づいてくると日が長くなり、夜10時を過ぎても明るい西日が家に射し込んできます。(3月末から10月にかけてサマータイム制が導入されています。)その分、冬は朝9時ごろまで暗く、また夕方4時を過ぎれば真っ暗です。そのため、現地の人々は日光を大切にしている意識がうかがわれます。

国境について言えば、北はオランダ・東はドイツ・南はルクセンブルグ・西はフランスと接しています。高速道路が非常に発達しているので、首都のブラッセルから1~2時間もあればそれぞれの国に入っていくことができます。もちろんEU圏の国々ですので、国境は看板があるだけで自由に出入りができます。

### (2) 人口と言語について



ベルギーの人口は、およそ1000万人です。

1993年の憲法改正でベルギーは6つの「国」に分けられました。ベルギーは実は6つの国からなる連邦国家なのです。この辺の事情を説明しましょう。

まず、何語を話すかという基準から大きく三つのまとまりに分けられます。すなわち北部のオランダ語を話す地域、南部のフランス語を話す地域、さらには南

東のドイツ語を話す地域(少ない)です。これら、言語の違いから分けられたまとまりを『共同体』といい、それぞれが政府議会をもっています。この言語「共同体」は、主に教育や文化をになっています。

さらに、この三つの「共同体」とは別に、国内を三つの『地域』に分けています。これらは北部と南

部と首都地域であり、この『地域』は経済面での独立した議会を有しています。

言語を基準に三つの共同体、経済のまとまりを基準に三つの地域、すなわちベルギー王国は六つの国からなる重層的な連邦国家であるといえます。(オランダ語共同体と北部地域=フランドルは、実質同じ範囲であるので、実質的には五つの国からなる連邦国家と考えてよい)

一つの民族がすべてを仕切ってしまうと、国内に反感が起こる…そのようなわだかまりをなくするために、それぞれの言語圏でそれぞれが責任をもちながら、「うまくやっていく」ために生まれた連邦国家という構造なのだそうです。いわゆる、言語対立や民族対立のなかで、自治の権限をそれぞれに持たせた国家といえるでしょう。

そのようにまとまっている「王国」ですから、もちろん王様は存在しています。現在アルベール2世が即位しています。

## 《首都ブリュッセル》

人口はおよそ 100 万人、(現在は 90 万人前後?)、日本人は 5000 人ほどが住んでいます。永住者もかなりおり、職業としては料理関係・理美容・芸術・商店経営などが多いようです。

一国の首都ですが、東京のような巨大な街という感じはしません。欧州の政治経済の中心として発展してきた歴史もあり、人種も様々です。肌の色・服装・言語などを異にした人々が同じ地域に住んでいるというのは、ある意味素晴らしいことであると思います。



EU 本部

### (3) 交通網の発達

#### (ア) 道路網

ヨーロッパはもちろん自動車社会です。高速道路網も非常に発達しています。道路使用税として毎年 2-3 万円が徴収されます。その分、高速道路は無料です。夜の外灯も大変明るく走りやすい道路が続きます。ドイツのアウトバーンなどは、外灯が全くなく危険な感じがしますが、夜に国境を越えベルギーに入ると、突然明るくなります。高速道路に限らず、ベルギー国内は大変外灯が発達しています。

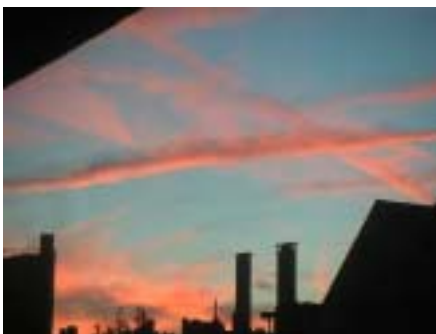
また、車はもちろん左ハンドルです。右方優先で、日本のようにドライバーは左右確認などしません。街の中はきわめて信号が少ないのですが、ちょっとした交差点でも、どうにか信号なしでうまくいっています。また、多くの交差点には、ロータリーがあります。

#### (イ) 鉄道網

ヨーロッパは高速鉄道も発達しています。ベルギーの TAVYS は、ブリュッセルのミディ駅からパリの北駅まで 2 時間弱で結んでいます。また、同じ駅から出ているユーロスターはロンドンまで 3 時間半ほどで結んでいます。その他、お隣フランスの TGV などベルギーに入っています。

#### (ウ) 水運

内陸にあるブリュッセルの街中にもカナル(水路)があります。北海から北の町ゼントやブルーージュなど、水路を利用して中世は綿織物のギルドが発達しました。また、国内の水路も発達しており、リフトで水位を変えながら、内陸まで船が出入りしています。



#### (エ) 航空網

左の写真は自宅から撮った写真です。縦横に見える飛行機雲は欧州の中心であるということが形になって見えている状態だと思います。

#### (オ) 市内の交通

市内の公共交通は 1 時間以内であれば同じチケットで乗ることができます。乗った後に刻印機で時刻を記入します。車掌さんがいるわけではなく自己責任において行きます。キセルも多いようですが、突然の一斉検札も多く、その場合は多額の罰金がとられます。

バスは本数もコースも多く、慣れると大変便利です。トラムといわれる路面電車は現在欧州で流行っている LRT ではありません。それだけに、昇降口が狭く段差もあります。しかし、

ベビーカーや車椅子の乗客がいると、誰でもすぐにフォローしてくれます。ベルギーは心のバリアフリーが定着しています。最後に、メトロといわれる地下鉄です。大きく3路線程度しかありませんが、移動が早いのが特徴です。

最後にタクシーですが、基本的に予約が必要です。時間を問わず、運転手は時間に正確に迎えにきてくれます。(時間に正確というのはベルギーでは珍しいことです。)

#### (4) 宗教と歴史

ベルギーは9世紀には封建諸侯がそれぞれの地域を治めていました。11世紀になりキリストの聖遺物を求めて十字軍の遠征が始まりましたが、この第1回目の遠征の指揮をとったのは、現在のベルギー南部にあるブイヨンのゴッド＝プロワ公でした。彼の碑は、王宮近くのロワイヤル広場の中央にどっしりと立っています。



また、古来から良港に恵まれ毛織物工業が発達しました。ギルドなどの同業者組合の発達も有名です。

14世紀以降フランスをはじめ列強の支配下に置かれ、度重なる戦争に翻弄されました。19世紀、ナポレオン失脚に追い込んだワーテルローの戦いの場は、ブリュッセル郊外にあります。人工の山が築かれ、頂上のライオン像は遠くパリを向いています。

1931年、ベルギーはオランダから独立。きっかけは、現在の国立劇場であるモネ劇場(旧造幣局)の舞台を見ていた観客の暴動でした。大変若い国です。

第二次世界大戦では、早い時期にドイツに降伏しました。その点で、首都には古い建物がたくさん残っています。ただ、南部フランドル地方のイーペルなどは、戦場となり大変な惨禍に見舞われました。映画「西部戦線異状なし」にその様子が詳しく描かれています。

#### (5) その他

(ア)ベルギーゆかりの人物には次のような人々がいます。

モーリス＝メーテルリンク「青い鳥」1911年ノーベル文学賞

ジョルジュ＝シムノン「メグレ警視」シリーズ

ヴィクトル＝ユーゴ～政治家・詩人・作家：グランプラスに在住

エラスムス～ルーヴァン大学

メルカトル 地理学

(イ)ベルギーの特産・食べ物

ワッフル チョコレート(小麦・砂糖大根・カカオ＝植民地コンゴ)

ムール貝 フリッツ(フライドポテト)

シコン(チコリ) ホワイトアスパラ

コンビニなどにあるFRISKはメイドイン BELGIUMです。

(ウ)ビールは二百種類以上あります。

その町々に地ビールがあります。大変安く、一杯200円程度です。

(エ)また、キャラクターとして世界に誇れるマンガのTINTIN(タンタン)そして、小便小僧(愛称ジュリアン君)などが有名です。

ブラッセル(Brussels・Bruxelles)日本人学校(補習校)

さて、それでは日本人学校についてご紹介いたします。

(1) 小学部(220人) 中学部(60人) + 補習校(150名)

日本からの生徒(愛知4割・関東3割・関西2割)

\* 多くは2～3年の滞在が多いようです。1年で帰国の生徒もいます。長い生徒で6～7年の滞在。

\* 生徒の人数は減少傾向にあります。最近では海外赴任者も若い人が多いのか、就学前の子供が多いようです。





各国からの生徒 各国日本人学校・現地校

- \* 保護者の仕事の関係で海外を転々とする生徒もいます。日本の学校を知らないまま、義務教育を終える生徒もいます。

現地からの生徒

- \* 日本人でありながら、やはり言語の壁が大きく立ちはだかります。

【Hさんの例】

父が日本人・母が韓国人 プロのチェロ奏者を目指しつつ、この子に流れる日本人の血を大切にしたい、日本の文化に触れさせたいと入学。イギリスの現地校～ベルギーフランス語圏の現地校を経て中学部へ。話せる言語は、英語・フランス語・オランダ語・韓国語。日本語は全く話せなかった。担任として、たどたどしい英語で対応。フランス語ができる生徒にときどき通訳などしてもらった。1年後、彼女は日常会話を普通に話していた。現在、音楽大学にも飛び級し、プロの演奏家を目指している。現在、日本人学校には週3日ほど通学。

派遣教員 20名 現採日本人 2名 現採外国語 7名 事務用務部 6名。

- \* 派遣教員の任期はH13年度から2~4年となった。

## (2) 日本人学校の教育

日本人学校での教育は、日本の教育課程をもとに行われ、帰国子女として日本に帰ったときに、スムーズに該当学年に戻っていける学力を保證してあげるという大きな目的があります。ただ、在外にあるという特質を生かして、国際理解教育・外国語教育・情報教育の3つに重点をおいて教育活動がなされています。

中学部の国際理解教育の一環として学校間交流がなされています。以下の学校との交流が毎年なされます。また、これ以外にも飛び込みで様々な交流が入ってきます。

- ・ マゼイク＝ミドンスクール（オランダ語圏・英語教育）
- ・ サマースクール・ケルンの学校 ドイツ語
- ・ プリティッシュ校（数学交流授業）
- ・ セントジョーンズ校（多国籍・私立）
- ・ サンジュリアン校（近隣校・幼小中高一貫）など

- \* 交流といえば、どうしても用意周到な準備をして計画通りにすすめるという日本人の特徴がありましたが、相手校はその場で「さあ何をする？」という感じが多かったです。ただ、毎年交流を深めて、お互い慣れてくると、相手校の先生方も準備をしてくれる場面が増えていったという印象です。ただ、「普段着の交流」を合言葉に本校も肩肘張らずに取り組む姿勢が整ってきていました。



箸の使い方指導？



\* 上記セントジョーンズ校への訪問をしたときに、東西の差を感じました。相手校の先生主導で、体育館で長縄跳びをしました。日本人の生徒が断然上手でした。集団でタイミングを合わせる運動をしてきている日本の教育の賜物でしょうか？次に、音楽に合わせて、グループで表現活動をするという活動。現地の生徒たちが断然意欲的でした。同年齢の中学生でしたが、小学校低学年のように素直に動物のまねをしてみたり、食べるまねをしてみたり・・・日本人は「照れ」があったようでした。グループで発表という段になって、現地の生徒は皆積極的な挙手で我先にといい感じでしたが、本校の生徒は「恥ずかしい」

がって、挙手をする生徒を見ていました。文化の違いでしょうか？

国際理解教育の一環として、地域との交流も盛んです。中学部では以下のような行事が、年間を通して全学年で行われます。

- ・ 地域間交流（地域のお祭への参加・ヨサコイ披露）
- ・ 日本企業自動車工場及び施設の見学
- ・ 写生会（郊外の城・国立植物園・世界遺産のベギン会修道院にて）
- ・ 芸術鑑賞（国立モネ劇場・芸術ホールパレ・デ・ボザール）
- ・ サマースクール（ドイツ国境付近 ビツェンバッハにてヨット・カヤック）
- ・ 集中水泳（現地モニターとの交流・深いプール3.5m・準備体操を不思議がる）
- ・ 修学旅行（イタリア・ノルウェー・フィンランド・オーストリア）
- ・ 合唱祭参加（ネールペルト国際大会）など

### （３）教科教育

校舎敷地を出ればフランス語の社会です。やはり、生徒の語彙不足（日本でも同じですが）感じられました。保護者も母親は職業を持っていないためか（？）大変教育熱心です。参観日や懇談会には全員が来ます。生徒も総じて勉強熱心です。日本語の情報といえば、インターネット・ビデオテープなどが主です。

そのような中で、ひとつ、学校図書館がありましたので、読書指導に力をいれました。読んだ頁数を累積していく方法をとりました。読んだ量が目に見える方法は、ある程度功を奏したと思います。読んだ生徒は年間 40,000 ページを読みました。また、表現活動を重視しマイクロディベートや修学旅行のプレゼンテーションなどの活動にも力を入れました。

PC室の活用を考え、パワーポイントの作成や、ワードの機能を使った要約指導も行うことができました。

また、派遣教員あるいは保護者の出身地が多岐にわたっていることを利用して方言の調査なども行うことができました。日本ではなかなかできないことが可能な部分も多い日本人学校をかんじました。生徒が訪れたことのある国を数えたら 30 カ国を越えます。国際理解の教材においても、貴重な話題が得られやすい環境です。



特別授業の様子

### （４）その他の教育活動から

#### 生徒指導

校則は特にありません。私服です。アクセサリ類も自由。日本から行った当初、ちょっと抵抗がありました。小学生までは保護者の送迎が必要です。中学生から単独登下校が許可されます。中学生どうして、学校帰りハンバーガーショップに寄ってきたり・・・という治安状態です。生徒指導という観点で見れば、三年間で数回、問題行動があった程度。

#### 小中併置

運動会応援合戦など小1から中3まで縦割り班となって取り組みます。そのことは、小中どちらにとっても有効に働くと思います。下級生は上級生を慕うようになります。特に紅白の応援団長などになる中学三年生は、ヒーローです。また、逆に小さな子供たちの視線が、中学生としての自覚を高めているようです。

#### 出授業（中学部の先生が小学部へ）

カリキュラムの関係で、中学部の先生が、小学部へ出授業という例があります。中学部の先生にとっては、来年の入学者の様子がわかるという点で、いい影響があります。

#### 居場所の問題

転出入は年間100人程度です。2年目に持った中学部のクラスは30名でスタートし、1年間で20名が転出、8名転入という激しい出入りがありました。迎える生徒たちも、それぞれの立場を理解しあい、温かく迎えます。

#### ランボー・ヘップバーン＝現地の素材開発

現地素材の開発を目指して、地域を取材し身近な人の教材化を行いました。フランスの象徴派詩人アルチュール＝ランボーと女優オードリー＝ヘップバーンの二人の生きかたを通して進路を考えようという学習でした。

外国語会話（英語・フランス語）週4回30分



オードリー生家 看板  
ブラッセル市内

国際理解教育の手段として、会話の力を養っています。  
全体としては、現地言語であるフランス語を選択している生徒は極端に少ないのが現状です。

#### 進路の大変さ

北海道の進路指導を考えれば、ものすごい多岐にわたります。中学三年生の進路は主に、日本の公立私立高校へ・欧州にある日本の私立高校・現地インターナショナルなどです。実際に進路業務に携わると、各都道府県の教育委員会とのやり取りが大変です。時差のある中での電話のやりとり、国際郵便による資料の請求などをはじめ、地域ごとに違う資料が必要ですし、様式も異なるからです。また、首都圏では私立の高校の入試日が異なり、多い生徒で7-8つもの受験をします。

#### 補習校

普段は現地校に通う日本人の生徒のために、毎週土曜日、国語と数学を中心として学ぶ補習校があります。日本人学校の先生方は直接関わることはないのですが、ボランティア的に、出前授業を頼まれることがあります。補習校の先生たちは、現地に在住している主婦の方々が多く、指導法を学ぶ機会ということからです。

補習校の生徒は、普段現地の言葉で一緒に勉強しているわけですから、正直いってたくたくの状態です。まして、現地が長い生徒も多く日本語自体がおぼつかない場合も多いのが現状です。一斉授業の難しさを感じました。生徒の目的も、日本人の友達に会える場所という部分もあるのは否めません。しかし、そのような中でも、教科書を読んでみようとか、考えてみよう、発表してみようという気持ちをもって取り組んでいます。



#### 現地教育制度

国立アテネロイヤル校 化学の授業 13歳  
校長先生が入ると突然起立した。



- (1) 現地の大学を卒業した段階で仏・蘭・独・英の4カ国語を話せるようになっています。実際に英語に通じる人も多くいます。
- (2) 中高での一貫教育制度が導入されています。日本でいう中学1年生までは共通して学びますが、中学2年生になると進路準備に取り掛かります。そして、中学3年生でコースに分かれます。その内容は一般コース(大学進学)・芸術コース(美術・音楽などへの道)・実科コース(いわゆるビジネス専門)・職業コース(いわゆる職業訓練的なもの)です。日本より早い段階で分かれていきます。ちなみにフランスの場合は小学5年間、中等2年目(中一)までに進路決定をします。ドイツの場合は、もっと早く小学4年、(小五で進路別れる)で意志を決めなければならないようです。このように欧州の教育システムは進路の早期決定によって、自己決定をせざるを得ない環境を作っているようです。

- (3) 現地の学校は水曜の午後、授業をもちません。(日本人学校もここは合わせています。そのため7時間授業の日があります。)その代わりに、地域の活動が充実しています。

スポーツ~サッカー・バスケット・乗馬・陸上・体操・水泳 など  
バカンス~スタージュ(集中講座)長期・家族単位・キャンピングカー  
コミュニケーション(区役所)主催の芸術・文化的活動=絵画・陶芸・ギターなど

#### 現地生活からの雑感

ヨーロッパは自己責任(自己責任とは「自分のことは自分でやる」考え方)

車社会を通してみれば自己責任ということが見えてきます。車を購入する時に、保険屋さんと手続きをしていきますが、ナンバーを得るのに書類をもって自分で陸運局に赴くのが一般的



です。さらには、車検（非常に簡単ではありますが）も自分、給油も自分で行います。日本は過保護というべきか、サービス業が発達しているというべきでしょうか。車の乗り方も激しいのでよく故障します。ガレージと呼ばれる自動車整備会社には、ちよくちよく通いました。腕は業者によってまちまちです。気になっていたエンジン音に対し「大丈夫」と言われ、ドイツの山中で車が動かなくなりましたが・・・

町並みはやはり美しいです。とにかく木々が多く、家々のレンガ色とマッチして絵になるたたずまいを見せています。動物愛護の風潮も強く、乗り物もレストランも犬であふれています。大変躰けられていて、気になりません。ただ、歩道の糞には参ってしまいます。

石畳の道もたくさんあったようですが、派遣期間中にうえからアスファルト舗装されていくところも多かったようです。

大木のある広い公園も多く、老若男女がゆっくりと自分の時間を過ごしています。また、日本では聞くことができない鳥のさえずりに目が覚めます。そんな自然の多い感じがするベルギーですが、虫の声は不思議と聞こえませんでした。そして、土が意外とやせています。日本の国土の豊かさを感じたものでした。さらに特徴的なのは車椅子などの障害を持つ人が街に多く見られることです。道に・プールに・様々な施設に。町のカフェでは昼間から老人がビールを飲んで会話を楽しんでいます。福祉という視点で考えると進んでいるなと思います。老人と子供を大切にすることは大切です。

地震のない国なので石造りの家でも十分耐え切ってきたのでしょうか。ただ、アパートの建設工事の遅さ（二年）・電話契約解除の曖昧さ・区役所の時間・銀行の少ない営業時間など、日本人からみれば、いい加減な部分も多く見えますが、国民性でしょうか。

生活をしていて大変感じたことですが、あいさつが活発であったということです。見ず知らずの人でも、目が合ったら「ボンジュール」と声をかけてくれます。横断歩道で車を止めると、子供でも必ず手を挙げて反応します。自分の意志で反応しあうという付き合い方が残っています。アパートの玄関であった見知らぬ人でも声を掛け合うという、隣近所の付き合いが治安の維持にも役立っているのではないのでしょうか。

スーパーのレジの人も（だいたい座って仕事をしています）、マニュアルどおりのあいさつではなく、目をみて話し掛けてくれます。町中があいさつであふれていれば、わざわざ学校で指導をする必要もないと思います。

日本の社会と大きく違う部分として、宗教が挙げられます。80%がカソリックで、町の中心には必ず教会があります。とともにその前には広場があります。教会の中は沈黙が守られ、心が落ち着きます。日本の社会にはそのような場所があるかなあ？と考えてしまいます。静かにするという時間は貴重です。

街角・スーパーの前には物乞いがよく見られます。1999年では12%の失業率でした。厳しい部分も実際にはたくさんあるようです。

ノーカーデーという日があります。市内自動車運転禁止という日です。市民みんなで一斉に！という場合、本当に守られます。市民は自転車に乗り出します。王女様も市民とともに自転車に乗ります。ユーロ通貨統合など、決められたことには一斉にしたがう集団意識というものに、市民の協調性ということが感じられます。



よく食べよく話す国民です。レストランは毎晩どこも混雑しています。そして本当に話を楽しんでいます。その晩座った席は、自分の場所として何時間でも会話をし、ワインを片手に食事をしています。

日本のようにコンビニはありません。日曜営業のお店もかなり限られています。水なども購入するため、奥様に車がなければ土曜日だけが買い物日です。

スポーツに関しては、やはりサッカーが盛んです。とともに国技は自転車です。ツールドフランスでも有名ですが、ロードレースが多く開かれています。スポーツ店にいても、野球用品はあまり見られず、その代わり乗馬用品が多く見られます。

水道水は石灰分が多く、食器洗いをしているとガラスが白濁してきます。（それを取るのにはアルコールピネガーです）生卵もとろけるような物が多く、生では絶対食べないほうがいいようです。牛乳も新鮮なものもありますが、賞味期限が半年も持つような怪しい牛乳です。

パン屋さんが必ず近くにあり、お店ごとにクロワッサンなどが安く手に入ります。そしておいしいです。バゲットと呼ばれるフランスパンのサンドイッチは、安いランチにもってこいです。病み付きになるおいしさです。

日本食や日本食材はだいたい手に入りますが、値段が高いのは言うまでもありません。日本の情報は(ビデオ・インターネット)からが主です。ベルギーでは日本のテレビ番組をほぼタイムリーに受信できる JSTV もあります。

病院は日本のように、病院らしい建物の構えではありません。一般家庭の一室を利用しているようなところが多いです。予約制です。救急の場合はそれなりに対応してくれます。薬局が町中にたくさんありますが、利く薬は医師の処方箋がなければ購入できません。

もちろん、総合病院もあります。ほぼ日本の様子と同じです。

アパートで生活しましたが、治安上の問題はありませんでした。地下の物置には一度泥棒が入りましたが、一応、防犯装置は設置しました。治安は日本よりはよくありません。空き巣や車上狙いは多く発生しています。もちろん、町の中にも治安の悪い地域があります。わざわざ近寄らないことが大切です。

#### 《現地テレビ放送について》

TV 放送・・・ベルギー・オランダ・フランス・ドイツ・イギリス  
ギリシャ・イタリア・モロッコ・ポルトガル語放送など  
オランダ＝病院・出産シーンが目につく  
ドイツ＝戦争ドキュメンタリーが多い

日本のアニメ・・・現地人日本語学習のきっかけ  
本当にたくさんのアニメが放映されています。

欧州放映日本のアニメ

日本の番組・・・映画フランス語字幕・大相撲・K1 など

#### ヨーロッパでの生活を通して・・・

ベルギーの人々の印象として「たくましさ」が挙げられます。つまり「生きる力」でしょうか。その理由を考えるに「表すこと」を大切にしているという感じがします。特に対話の重要性です。つまり、日本人には欠けがちな、遠慮せず堂々とした態度で生きているという印象が強く残っています。

多国籍の人々がいる首都では、違いを認め合うことが大切です。そのために話しかけること(表す自分を見せる欲求)で、問題解決(成長)を図っているようです。日本人学校の生徒でも長期滞在の生徒、つまり、海外が長い生徒ほど、「堂々としている・自信がある・何でも尋ねる」といった条件を備えているように感じました。

日本では、常に、「人からどう思われるか・・・体裁が悪い・・・周りがこうだから・・・失敗すると恥ずかしい」といった気持ちが働いているように思います。集団の中で自分がどうか？ということですが、しかし、欧州は『わたしが「今」欲している・・・他人は他人の考え・・・失敗しても「私」の責任』という、決して自分勝手ではなく個人として何を考えているかということが大切なのだと思います。

そのような意味で、これからの日本人が国際化の中で大切にすべきことは、自分に自信(うぬぼれではなく)を持つことでしょう。「自信」つまり、「できること」と「できないこと」がはっきりしている状態をもつ。言い換えれば「できる」範囲は自分で行う。その上で「できない」範囲は他の助けを借りる(という集団への意識)。そして、その判断は自分しかできないはず。ですから、自己決定を早いうちに大切にしていけるのではないかと思います。そうして築いた社会は「欧州統合」という事実にあらわれているのではないのでしょうか。

アジアで通貨を統合し、各国の行き来を自由にし、政治的経済的協力・平和安全保障の結合が可能でしょうか。ものすごい動きが今、欧州で始まっているわけです。

参考サイト

<http://www.japanese-school-brussels.be>

参考資料

障害のある子と暮らすベルギー 芳武敏雄